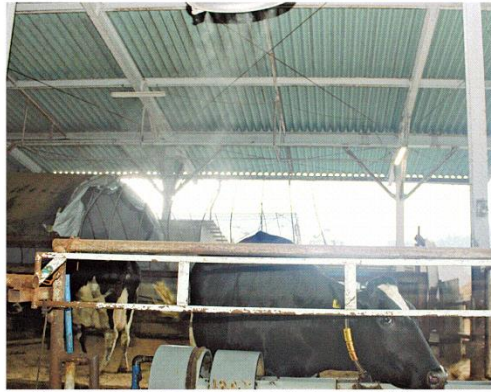




# 牛乳の生産量減少 コメ、野菜に病害虫

# 酷暑 農林業に影響

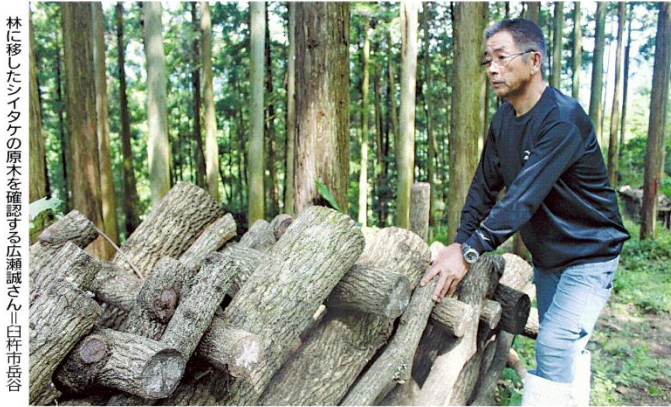


酷暑で牛が夏バテし、乳量が減っている＝竹田市久住町白丹

「日を浴びて甘みが強く、なっている。生畜は順調だ。宇佐市安心院町平山の農園。皮ごと食べられる人気のアドウ「シャインマスカット」を55坪で栽培する小野次信さん(73)は、口元を緩めた。晴天は恵みとなっている。

## 果物などには恩恵も

酷暑が県内の農林業にさまざまな影響を及ぼしている。強い日差しで甘さを増す果物などの農産物にはプラスになっているものの、牛乳は生産量が落ち、コメや野菜は高温や乾燥を好む病害虫が発生して被害が出ている。大分地方気象台によると、暑さは9月下旬まで続く見通し。生産者は「まだまだ気を抜けない」と暑さ対策に余念がない。



林に移したシイタケの原木を確認する広瀬誠さん(川口市岳谷)

「表情を曇らせる。毎日2回の搾乳で1日当たり3・6トを生産する。乳牛は暑さに弱い。畜舎には噴霧器や送風機を設けて室温を下げる対策をしているものの、7、8月の生産量は約1割減った。志賀取締役は「気温が20度以上だとストレスになり、病気を発症することもある」と警戒を続ける。約70戸が入る県酪農協によると、7月に県内の農家

から集荷した生乳は5258トで、前年同月に比べ4・6%減った。釘宮修農部長兼業務部長(55)は「暑さが確実に影響している」と語る。

農作物に被害をもたらす病害虫も増えている。水稲の養分を吸うカメムシ類、ピーマンの花や実を食べるアザミウマ類が過去10年間で最も多く発生しているとして、県は今月、県全域に注意報を出した。

秋以降に収穫を迎える農林業の現場も「暑さがいつまで続くのか」と気をもんでいる。原木シイタケの「秋子」は10、12月にかけて生育する。臼杵市岳谷の広瀬誠さん(62)は10年前に栽培場所を山の斜面からスギ、ヒノキの林の中に移した。日が当たってシイタケ菌が死ぬのを避けるためだ。

広瀬さんは「草刈りで風通しを良くするなど、今から小まめに手入れをして乗り越えるしかない」と話す。県地域農業振興課は「猛暑による被害の全容はまだつかめていない。それぞれが品目に必要な対処をしてほしい」と呼びかけた。

(佐藤章史)

×  
モ

大分地方気象台によると、県内の7月の平均気温は主な観測地点5カ所(中津、日田、大分、竹田、佐伯)のうち、中津を除く4カ所で平年より高かった。日田市の最高気温は平均33・5度で、12度。大分市は31・8度、0・9度。それぞれ高かった。8月上旬も平年より高い地点が多かった。9月10日までの福岡管区気象台の1カ月予報では、九州北部地方の平均気温は平年より高い見込み。

大分合同新聞 2023年8月30日(水) 朝刊 23面

〔問①〕印象に残った箇所に~~~~線、主題(筆者が一番伝えたい箇所)に——線を引こう。

〔問②〕感想や意見などを書いてみよう。

〔問③〕漢字の読みを書こう。

- ①搾乳 ( )      ②噴霧器 ( )      ③警戒 ( )
- ④養分 ( )      ⑤栽培 ( )

〔問④〕次の意味を持つ言葉を記事の中から探してみよう。

- ①緊張した状態を続けること。 ( )
- ②ほかのことを考えず、一つのこと熱中すること。 ( )
- ③喜びを隠しきれずほほ笑む、笑顔になること。 ( )
- ④心配してやきもちすること。 ( )